

〔特別寄稿〕

## 北京医院における糖尿病看護の紹介（講演録）

孫 超\*, 董 超\*

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介に与りました孫超でございます。本日は発表のチャンスをいただいて、本当に感謝しております。初めて日本語で発表するので、ちょっと緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

まず北京医院について簡単な紹介をさせていただきます。北京医院の正式の名前は衛生部北京医院で、1905年に設立され一昨年100周年を迎えました。面積は53000平米で、病床数は1100床です。北京医院は総合成人病院で、小児科はありません。特徴は老人医学で、老人医学研究所が附属しています。

図1は北京医院の全景図です。病棟は南病棟と北病棟に分かれています。私は日本に来る前、北病棟に勤めていました。その他には外来棟や老人医学研究所や救急部の建物があります。中国の総合病院には大体救急部が付いています。

図2に北京医院の基本精神を示します。中国語ですが主旨、態度の意味は大体解っていただけたと思います。理念については、「人を中心にして、質が高く、効率のよいサービスを提供する」という意味になります。

北京医院の看護師は全員で840人で、すべて女性です。看護の理念は「仁愛為本、慎独為魂」で、意味は「患者さんに優しい愛情を持って接し、自分を厳しく律すること」です。

それでは北京医院における糖尿病の看護について、病棟と外来両方から紹介したいと思います。

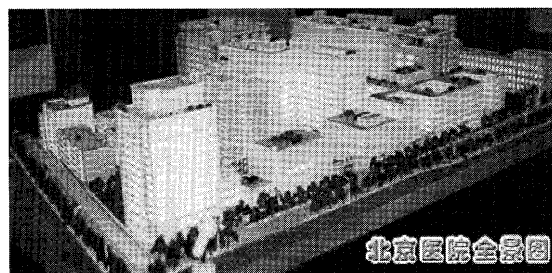


図1 北京医院全体図

主旨：忠誠保健事業，心系人民健康  
態度：団結，慎重，求实，創新  
理念：以人為本，優質高效

図2 北京医院の基本精神

外来は普通の糖尿病外来と中医糖尿病外来に分かれています<sup>†</sup>。普通の糖尿病外来は血糖を下げる薬とインスリンを出します。中医の糖尿病外来は中医の理論を利用して、血糖を下げる漢方薬を出します。外来の医師は月曜日から金曜日までは3～4名、土曜日は1人です。およそ1日150人ぐらいの患者さんが受診に来ます。

外来での糖尿病看護についてお話しします。

### 1. 健康教育

健康教育のパンフレットを渡したり、教育のための展示も行います。月一回糖尿病教室もあります。さらに、万が一低血糖が発生した時助けても

\* 藍野学院短期大学専攻科留学生

† 中医とは中国における漢方医療のことである。中国では西洋医学による医療と中医は完全に分離されている。

らえるように患者さんには“私は糖尿病患者です”というカードを作って渡します。

## 2. 義務診断

これは日本にはない言葉だと思います。中国語で義務の意味は二つあります。ひとつは日本語の義務と同じです。もう一つは「ただ」という意味で、義務診断とは無料で行う診断の意味です。月に1回、外来のロビーで患者さんだけでなく、一般の人に対して糖尿病の知識を紹介したり無料で血糖値を測ったりします。これは糖尿病の早期診断に役立ちます。

## 3. 看護師外来

医師の外来だけではなくて、看護師の外来もあります。先ほど紹介したとおり、一日に受診する患者さんが150人ぐらいと多いので、一人の受診時間は短いです。もっと詳しく説明してもらいたい方は看護師の外来にいきます。又患者さんの知識レベルによって、個別の指導も行っています。

次に病棟を紹介いたします。糖尿病専門の病床数は26床で、医師が13人で、看護師が12人です。看護の内容は、

### 1. 入院指導

患者さんが入院したら、病棟の環境を紹介します。こちらはナースステーションとか、そちらはトイレとか、食事時間は何時から何時までなどということです。入院中の患者さんは自分で血糖値を測って、記録して、看護師はその記録を定期的に見ます。だから入院時に血糖測定器の使い方と測定の意義も患者さんに教えます。図3は看護師

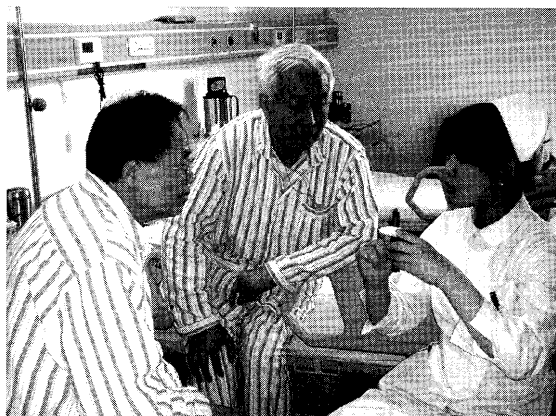


図3 入院指導の様子

が指導しているところです。

### 2. 治療に向けての指導

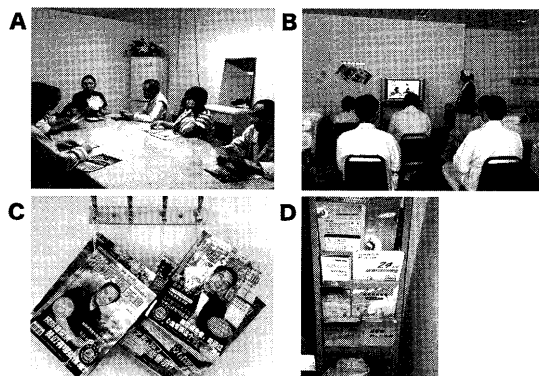
ご存じのとおり糖尿病の治療は食事療法と運動療法と薬物療法になります。これらについて患者さんに指導します。食事療法は、栄養師と協力して、患者さんに食事のアドバイスを提供します。食事のカロリーの計算方法も紹介します。運動療法は、医師と協力して、患者さん本人に対応する運動プランを指導します。しかし実際は、患者さん自身に任せているのが現状です。薬物療法は日本と大体同じだと思います。内服薬の飲み方と時間とか、インスリンを注射したら、何分後に食べられますとか、退院前はインスリンの注射方法と保存方法も教えます。さらに低血糖の症状と救急の処理方法も紹介します。

合併症について患者さんに紹介する目的は二つあります。ひとつは合併症の予防です。そのために患者さんに血糖のコントロールの意義を理解していただきます。もうひとつはすでに合併症を持っている患者さんに対して、合併症に関して注意することを指導するということです。

また足の怪我の予防方法と日常生活の注意事項を患者さんに教えます。検査か治療するついでに看護師が足をチェックします。

### 3. 健康教育(図4)

外来と同じように糖尿病教室を週に2回行っています。看護師か栄養師が糖尿病について知識を紹介します。例えば、カロリーの計算とか合併症の予防など。糖尿病の分かりやすいビデオもあり



A. 栄養士による栄養指導、 B. ビデオによる老尿病の指導

C. 文字教育：自由に閲覧できる糖尿病雑誌

D. 文字教育：パンフレット

図4 健康教育

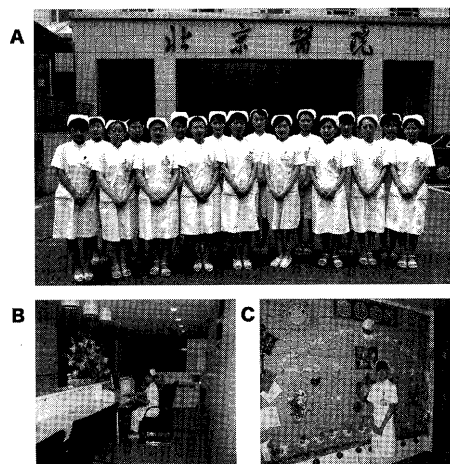
ます。そして、患者さん同士の交流もあります。中国人は性格的に交流するのは得意です。

文字教育というも行っています。文字教育とは、例えば、廊下の壁に貼っている糖尿病の展示とか、糖尿病の雑誌とパンフレットなど、文字情報で健康教育を行う事をいいます。さらに、患者さんに気づかせるカードも利用します。例えば、ある時インスリンを注射している患者さんが、朝空腹で検査を受けて帰ったら、インスリンの注射を忘れて、そのまま朝食を食べてしまったことがあります。このような経験から、インスリンと食前薬を忘れないように、患者さんのテーブルの上にカードを置くのです。

以上で北京医院における糖尿病看護の紹介を終わります。

日本に来て経験したことで、今後北京医院でも取り入れたいことがあります。一つは患者さんへの優しい言葉遣いを心がけるといことです。北京医院の看護師も本当は優しいのですが、中国語では喋り方がきつく聞こえてしまうのです。もう一つは患者さんとの食事会や職員とともにやる運動療法です。これらは現在北京医院にはないので、ぜひ取り入れたいと思います。

最後に、私が勤務している病棟である老年科病棟の写真をお見せいたします（図5）。来年は北京オリンピックです。皆さんぜひ北京にいらっしゃっ



A. 私の病棟の看護師たち、 B. 詰め所、 C. 飾り付け

図5 病棟の様子

てください。

今日の発表は以上です、御静聴ありがとうございました。

本稿は2007年11月24日に藍野ホールにて行われた、藍野シンメディカル糖尿病セミナー講演会において発表した内容を寄稿用に編集したものである。

編集 藍野加齢医学研究所 田中俊典